

東京納税貯蓄組合総連合会会長賞

「願いの税」

足立区立 千寿桜堤中学校

三年 小杉 野乃香

「我慢できない」

祖父の家へ向かう車の中で親戚の小学二年生の男の子が口を開いた。今は渋滞の真っ只中だ。パーキングのトイレまではまだまだかかりそうだ。本来なら十分でつくが、結局四十分してやっと到着した。夏休み特有の渋滞に対するピリピリした空気が私の車だけでなく辺りからも感じられる。「渋滞のせいで。何で渋滞なんか起こるんだ」という声がひしひしと伝わってくるようだ。その後も渋滞は緩和することなく予定より三時間遅れて祖父の家に着いた。

このようなことは誰しも一度は経験があるのではないか。私は無心になって渋滞をなくす取り組みにはどのようなものがあるのか調べていた。ETCの設置、渋滞ポイントマップ、信号制御など色々な記事がある中でも私の中で最も惹かれたのはイギリスの税に関する記事だった。

驚くべきことにイギリスには「渋滞税」というものがあるらしい。簡単に言えば、特定の時間帯にある区域を走行する際は税金を払うという仕組みのものだ。詳しく見てみると渋滞税が課されるのは平日（月曜日～金曜日）の朝七時から夕方六時三十分までの時間帯に限定され、税額は一律五ポンド（約九百五十円）という決まりらしい。車といっても環境に優しい電気自動車や公共交

通機関であるバスは渋滞税に含まれない。

この取り組みの結果、ロンドンの渋滞は三十パーセント緩和され、交通量が十五パーセント減少、それだけでなくCO₂の排出量減少などの効果があつたそうだ。しかしロンドンでは滞納に関する問題が発生しているというマイナスな側面もある。日本でも東京オリンピックの際に渋滞税の制度を試験的に取り入れたそうだ。その結果交通量は削減したのだが一時的な取り組みで終わっている。だが渋滞もなくなり環境改善にもつながるなんて最高の仕組みではないか。その時私は唐突に理解した。

「税金は人々の生活をより良くするために納められるのか」

渋滞税を調べたことで私の税に関する思いが大きく変わった。

今までは「消費税なんてなければあれも買えたのに」と否定的にしか捉えることができなかった。しかし渋滞税を通して税金の本当の意味が分かった。渋滞税は人々の渋滞に対する不快感軽減や大気汚染防止のために作られた。消費税は給与所得の税負担の偏りをなくし公平な納税制度を目指して作られた。どの税金だって同じだ。必ず根本には人々の生活をより良くする願いがある。中学生の今は身近な税では消費税を払っているが、三年もすれば自動車税や所得税など多くの税と関わることになる。そのようなときに社会の一員として役割を担っているという意識をもって税と向き合っていこうと思う。